



種子馬鈴薯 第三期防疫検査を終えて記念撮影!



vol.500

2017 8

第53回 今金町畜産共進会

7月28日、53回目

を迎える今金町畜産共進会が開催されました。

当日は小雨の降るあいにくの天気でしたが、乳用牛26頭、黒毛和種牛25頭の合計51頭が出陳され、生産農家の日頃の研鑽努力による改良成果が披露されました。

審査は厳格公正に行われ、各部のグランドチャンピオン・リザーブチャンピオン・最高位・準最高位が選ばれました。

また第63回道南畜

う！ 活躍に期待しましょ
当町からの出陳牛の
もに8月23日に八雲
町にて開催されます。
当町からの出陳牛の部と
の部、乳用牛の部ともに
の部、乳用牛の部ともに
活躍に期待しましょ



▲ 乳用牛経産 グランドチャンピオン
インマヌエル アツトウッド エアロスター



▲ 乳用牛未経産 グランドチャンピオン
インマヌエル スモーキン サム



▲ 黒毛和種経産 最高位 さくら



▲ 黒毛和種未経産 最高位 なな

賞名	名号	出陳者
乳用牛未経産	グランドチャンピオン インマヌエル スモーキン サム	山崎 良介
	リザーブチャンピオン ホット ドミニク ルドルフ	湯元 宏
乳用牛経産	グランドチャンピオン インマヌエル アツトウッド エアロスター	山崎 良介
	リザーブチャンピオン エツセンス サンチエス アポロ ジョーダン	菊地 章太
黒毛和種未経産	最高位 なな	諸戸 邦吉
	準最高位 こま	伊藤 和喜
黒毛和種経産	最高位 さくら	荒川 英也
	準最高位 ちらら	境田 哲哉

第11回全国和牛能力共進会 北海道代表最終選抜

今金勢

宮城全共出場へ!!



▲3区代表となった『ちちんぶい』と木島隆浩 組合員

6月29日、十勝管内音更町において全国和牛能力共進会（和牛全共）に出場する北海道代表の牛を決める最終選抜会が行われ、3区（若雌2ヶ月～20ヶ月齢）の代表に木島隆浩 組合員（白石地区）の「ちちんぶい」が、6区（高等登録群）の代表に佐藤弘一 組合員（鈴木地区）の「なゆり」「ななし」「ななかつ」が北海道

6月29日、十勝管内音更町において全国和牛能力共進会（和牛全共）に出場する北海道代表の牛を決める最終選抜会が行われ、3区（若雌2ヶ月～20ヶ月齢）の代表に木島隆浩 組合員（白石地区）の「ちちんぶい」が、6区（高等登録群）の代表に佐藤弘一 組合員（鈴木地区）の「なゆり」「ななし」「ななかつ」が北海道

の代表に選ばれました。

和牛全共は5年に1度開かれる和牛日本一を決める全国大会です。第11回目の開催となる今回は9月7日～11日かけて宮城県で開催され、そこに全国のブランド牛が集結し口頭の改良成果を競います。

道産和牛ブランドの市場価値向上のため、北海道代表牛の活躍に期待しましょう！



▲6区代表となった『なゆり』『ななし』『ななかつ』と佐藤弘一 組合員

いまかね TOPICS

種子馬鈴薯防疫検査 全筆合格で無事終了しました



春から優良種子生産に向けて何度も圃場を巡回してきた生産者の皆さん、抜取り等指導に当たられた防疫補助員の皆さんもホッと胸を撫で下ろしたこと思います。この後も自主検査の実施等厳格な検査が行われますが、先輩諸氏の努力により築かれた「今金男しゃく」の名声を維持、向上させるためにも収穫まで気を緩めずに生育管理・環境整備の徹底をお願い致します。

日本一の「今金男しゃく」の元となる種子馬鈴薯の防疫検査が既報の第一期に続き、第二期が7月4日、第三期が7月19日に実施され全筆合格となりました。当日は農林水産省横浜植物防疫所より植物防疫官が来町し原種、採種から合わせて15筆が抽出されウイルス株・アブラムシの有無、植物検診、土壤検査が行われました。

広域大根・人参部会 合同現地研修会を開催



7月26日、檜山北部広域大根部会と檜山北部広域人参部会が合同で現地研修会・自揃え会を行い、総勢約30名が参加しました。現地研修会では大根1圃場、人参2圃場を視察し、現在の生育状況や品種による生育の比較を行いました。自揃え会では関東3市場より担当者が来町し販売情勢の報告、普及センターより病害虫防除についての情報提供が行われました。

町内の小学校に食農教育教材を贈呈



7月14日、当JAの小田島組合長が今金小学校・種川小学校を訪問し、両校の校長先生へ食農教育教材が手渡されました。教材のタイトルは『農業とわたしたちのくらし』。JAバンク食農教育応援事業の一環として、児童たちに農業について理解を深めうたために、小学5年生を対象に平成20年度より毎年贈呈を行っています。この教材は、農業体験学習活動、地元食材を使用して農業体験がさらに活発に行われることが期待されます。

活動レポート

7月19日～20日 道内視察研修

参加人数 部員11名（事務局1名）

視察研修の目的について…

先進地や市場を主とする視察は各生産部会によって行われており、部員の多くがそれに参加しています。

今回の視察の意図として、『青年部だから出来る』に特化し、農業分野に絞らず地域の担い手としての広い観点から地域資源の有効活用事例や、農業カテゴリーであっても普段は触れる事のない業態の存在を見ることによって、既に経営をしている部員や次期経営者に、地域の抱える問題や自らの仕事に対する価値的創造や多角的な発想を感じてもらえればとの期待を込めて企画しました。

ニッカウヰスキー蒸溜所（余市町）

朝の連ドラ「マッサン」の舞台で一躍全国的に有名になり、観光客が多くいたニッカウヰスキー蒸溜場。余市の気候風土の特徴を活用し、ウイスキー作りをしている事、さらにその歴史も活用し地域における観光名所として日本全国や海外から多くの人が訪れるのを見学し、自らの町の地域資源について考えるいい機会になったと思う。



山本観光果樹園（余市町）

季節に応じて様々な果物狩りが楽しめる観光果樹園。営農形態は違えど「農業」としては同じカテゴリーである。近年では体験農場などもクローズアップされていることから、農業をより多くの人に理解を求めていく上で参考になったと感じる。

ジャム等の加工品や希少品種の限定直売、野菜の直売などもされており、こちらも多くの観光客で賑わっていた。



日本ニューホランド(株) デポ工場（苫小牧市）

海外の農機具メーカー、ニューホランドの北海道の物流拠点。

300馬力のトラクターや巨大農機具に「すげー！」の一言、もちろん普段の営農に使われる部品やトラクター等も多くあった。

海外からの輸入プロセスから品質管理、農家からのオーダーに対応する物流管理などの説明を受けた。

最新の情報では、すでに海外では全自動のトラクターが稼働しているとの事、今後5年ほどで日本にも入ってくる可能性が高いらしい・・・お値段も高いけど（笑）



檜山農業改良普及センター檜山北部支所より

営農情報 8月号

今後の農作物管理		今後の農作物管理
水 稻	<p>水稻（遅4） 7/15 現在 適期防除及び適切な水管理で穀実向上と登熟の促進に全力を！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病害虫防除の徹底！ くいもち病> 基幹防除は①出穗期と②その7～10日後、発生予察情報にもご留意下さい。 <カメムシ類>乳熟期を中心で防除を徹底。残効の長い薬剤（カブアやスルーカル削など）を出穗期から7～10日後に使用をすることで1回防除が可能（H27指導参考）。その後は予察に基づく追加防除をご検討下さい。 ○出穗・開花時は水が必要！ まだ開花中の場合は3cm程度の浅水で湛水状態を保ちましょう。 ○間断かんがいの実施。 開花終了後は“間断かんがい”を実施。落水後の入・排水と収穫作業円滑化のため、“溝切り”を実施しましょう。 ○登熟後半の土壌水分の維持！ 落水の自安は出穗後25日目頃（穂かがみ期）ですが、落水後は天候や場所の状況に応じて適宜“走り水”を！（土壌水分が不足すると、枯上りが早く倒伏につながります） ○育苗床土の培養 苗床（置床）や箱土は、早めに土壌診断を実施し、酸度矯正や培養に努めましょう。特に育苗ボットや型枠様式の置床では根の生育抑制や異常褐変症状につながる「酸性化」と「磷酸過剉」の状態が目立ちますので総合分析（pHやECの他に磷酸・石灰・苦土・カリなど）を行いを確認しましょう。 改善策①: pHを4.8程度まで上げる。・必要なタンカル量を改善策②: 磷酸・苦土比や石灰・苦土比により必要な苦土量補強・カルマグや苦土炭カルなど。 改善策③: 磷酸、カリの量により施肥改善・単肥：硫安等、低磷酸鉄（S066） 	<p>大豆（早3日） ○品種に合わせた病害虫防除 黄大豆では紫斑病が黒大豆ではべと病が子實に病斑を形成し問題となります。べと病は、風通しが悪いと発生しやすくなります。生育と発生状況を観察し、適期防除に努めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マジンクイガ 早めの防除を！ 近年全道的に発生が増え、被害が増えています。大豆連作は場や昨年の大豆作付は場に近いは場では特に注意し、早期にローション防除を実施しましょう。 小豆（遅4日） ○病害虫の防除 病害の発生や今後の天候に十分注意し、防除を行いましょう。 ○マメアブラムシに注意！ マメアブラムシは、黒色で集団寄生するのが特徴です。は場をよく観察し、早期の防除に努めましょう。 ○病害の防除（灰色かび病・菌核病） 今後茎葉が繁茂し、病害の発生・蔓延の恐れがあります。病害の発生状況を確認し、早期防除を実施しましょう。
小 麦	<p>秋まき小麦 ○9月は次年度のは種が始まります は種前に土壌診断を行い、土壌pHを確認し極端に低いは場は、炭カルなど石灰質資材で矯正しましょう。生育期間中に低pHによる障害が出てしまうと、対処の方法がなく施肥効果が半減します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○は種機の調節を行いましょう！ 「きたほなみ」は茎数が増加しやすく、適期・適量は種が重要です。は種作業の前に、は種機のは種量調節のダイヤルを調節して、適量は種を行いましょう！！ 	<p>ブロッコリー 気温が上昇してくると、花蕾腐敗病の発生に注意が必要です。計画的に薬剤を予防散布して発生を防ぎましょう。</p> <p>銅剤（「コサイド3000」等）は高温時の散布で葉害・葉斑を生じる場合がありますので、夕方などの気温の下がる時間帯に散布しましょう。</p> <p>だいこん・こかぶ コナガ及びオオムシ等の発生が多い時期になっています。 系統の違う剤によるローション防除を行いましょう。</p> <p>にんじん 黒葉枯病は、生育最盛期から後半に発生が多くなる病害です。 気温が高く、晴天と雨天が繰り返されると多発します。 収穫までの日数を考慮し計画的に防除を行いましょう。</p> <p>軟白長ネギ 8月はネギアザミウマ（スリップス類）の発生最盛期です。 ハウス周辺の雑草から進入し、成虫および幼虫ともネギの葉上で食害します。ハウス周辺の雑草を処理するとともに発生に注意して適切な防除を行いましょう。</p>
馬 鈴 薯	<p>露地ばれいしょ（早3日） ○茎葉処理について デンカン乳剤の使用方法、使用基準を守りましょう。土壌が極端に乾燥しているときは避け、朝露の無い時間帯に、茎葉にムラなく散布しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収穫作業について キズや打撲といった機械作業による規格外の発生が増えています。収穫前に収穫機械の調節・整備、特に鍛衝材・部分の調整を行いましょう。また、収穫時にコンベヤの回転・速度・掘取り刃の深さを調節しましょう。 茎葉処理後10日以降、は場が乾いた晴天の日に収穫作業を行いましょう。寒い日に行うと打撲が多くなります。 収穫後のいもは、風通しの良い光の当たらない場所に置きましょう。JAで行う収量調査結果を参考にして作業を進めてください。 <p>早出しばれいしょ（早3日） ○収穫作業について 皮剥けを防止するため丁寧に収穫し、品質の良いばれいしょの出荷に努めましょう。</p>	<p>牧草（遅1日） 飼料用とうもろこし（遅1日） 1 乳牛 (1) 暑熱対策 暑熱ストレスの影響が特に大きい乾乳牛、分娩直後及び高泌乳牛では暑熱対策を徹底しましょう。</p> <p>(2) 繁殖管理 暑熱対策により牛体温の上昇を抑え、受胎率の低下を防ぎましょう。 乾乳牛および分娩前後の管理の善し悪しは、繁殖に大きく影響するので暑熱対策を徹底し、採食量の大幅な減少や体調の変化などを注意深く観察し、疾病等トラブルを早期に発見しましょう。</p> <p>(3) 放牧牛管理 この時期の放牧地は草勢が衰え、採食量が低下する。休牧日数の延長や兼用草地の活用、牧区の拡大等で採食量を確保しましょう。</p> <p>2 草地管理 (1) 2番草の刈取り適期 2番草の刈取り時期は、1番草刈取りからチモシー主体草地で55日後、オーチャードグラス主体草地で45日後、アルファルファ及びリードカナリーグラス主体草地で40日程度を目安に刈り取りをしましょう。</p> <p>(2) 草地の追肥 オーチャードは8月下旬に新芽の発生や分けを行います。 収量性向上のために、この時期に適正な追肥をしましょう。</p> <p>3衛生管理の徹底 「病気を持込みない、持ち出さない、広めない」を徹底しませう。 外部の人が入れるエリアを制限し、家畜エリアは乾燥と衛生的な状態を維持しましょう。</p>
てんさい	<p>てんさい（早3日） ○病害虫の発生に合わせた防除 は場をよく観察し、病害虫の発生状況に注意しましょう。褐斑病の発生に注意し早期の防除を心がけましょう。</p> <p>ヨトウムシは若齢幼虫のうちに早めの防除を、ハダニは発生を確認したら、すみやかに防除を行いましょう。</p> <p>○育苗土の準備 病害虫が発生する恐れのない腐植に富む土を準備しましょう。 pH矯正目標は6.0～6.5です。土壌pHを測定し、必要に応じて石灰質資材で矯正しましょう。</p>	

檜山農業改良普及センター 檜山北部支所
TEL 0137-84-5514
FAX 0137-84-5596
E-mail hoho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp

檜山 普及センター



J A グループ通信

J A グループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A 北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBSITEをご覧ください。

J A 北海道中央会

6月11日に全道3会場（J Aさっぽろ、JA帯広かわにし、JAしふちや）にて「みんなのよい食」JA親善大使」を開催しました。

この取組みは、北海道コンサドーレ札幌の選手がJA親善大使として、子どもたちと共に「よい食」とは何かを考え、食の大切さや地域の農業の役割を再認識してもらうものです。

JA北海道中央会



J A 北海道信連

6月に、札幌駅前通地下歩行空間でJAバンクのPRイベントを行いました。

当社は、「ドドーン貯 キヤンペーント」のPRや若手女性農業者集団「links」の内山佳奈さんによるトークショー、「ちよりス」グッズの当たる「クイズ大会」等を実施しました。また、「ローン相談」「ナーナー」の設置やSNSに「ちよりス」の写真を投稿した方へ記念品を配布する等、JAバンクを広くPRできました。



ホクレン

ホクレンでは、今後の宮農参考にしていただくため、地域に応じたスマート農業技術の紹介に取り組んであります。7月1日に開催した上川地区のフェアでは、圃場水管理、ハウス関連機器、アシストシステム、センシング関連、ドローン、GPS自動操舵の6分野で新技術の紹介やセミナーを実施し大勢の生産者や関係者に来



J A 共済連北海道

組合員・利用者の皆さまへ事業概要や支払規模、経営の健全性をご紹介する資料として、平成28年度の事業概要をまとめたりーフレット「JA共済 安心めつせーじ」を発行しました。「ひと・いえ・くるま」の主な保障の保有実績や共済金支払実績、経営状況や地域貢献活動への取組みなどをわかりやすく説明しています。今後も、皆さんに安心してご利用していただくため、情報をお届けして参ります。



J A 北海道厚生連

この度、北海道厚生連はホームページをリニューアルいたしました。より快適にホームページを使っていただけるよう情報を整理し、分かりやすく見やすいレイアウトにしました。またスマートフォンやタブレットからの閲覧もしやすくなっています。

今後もよりいっそう充実したホームページにしていきますので、引き続きよろしくお願い申上げます。





声をかけあい
助けあい
作業事故ゼロへ！

一人ひとりの安全意識と 仲間との「声かけ」が農作業事故を防ぎます。



トラクターによる事故

トラクターが転倒・転落し、投げ出されて機体の下敷きになった...など



高所での作業中の事故

脚立での作業中、設置時のバランスが不安定だったり天板に上がったりした際に転落して頭を打った...など



耕耘機・コンバインによる事故

耕耘機をバックさせていたところ木と機体の間に挟まれた、コンバインの手こぎ作業で手を巻き込まれた...など



草刈り時の事故

草刈り機の使用中に足を滑らせて足を切る、夏の屋外の作業で熱中症になる、雑草を燃やしていて火にまかれた...など